



Profile

武蔵野音楽大学卒業後、ヤマハ音楽教室システム講師時代を経て、個人ピアノ教室を自宅にて開く。ピアノ指導歴55年。今もなお小学生から大人まで生徒を持ち、指導を続けている。

名立たるピアニストを輩出 ピアノ指導のスペシャリスト

足田範子

Meriko Hikida

浜松市中区の自宅で、ピアノ教室を開く足田範子さんは、世界で活躍する多くのピアニストを輩出している。トップジャズピアニストである上原ひろみさんをはじめ、安藤真野さん、宮本いずみさん、石井園子さんなどそうそうたる顔ぶれだ。足田先生の指導はアナリーゼ(楽曲分析)をしっかりと行い、アーティキュレーションを意識した演奏を大切にしている。「このフレーズは太陽が昇るような雰囲気だ」と表現のニュアンスを分かりやすい言葉で導く。また生徒がイメージをつかめないときは「このフレーズは何色だと思おう」と、音を色や身近なモノで例え、表現を引き出す。そのユニークな指導こそが生徒たちに心に音楽を奏でるこの楽しさを感じさせるのだらう。また自身が懸命に練習し、挑んだ試験で落ちてしまったことをきっかけに、人前で実力を発揮するには精神力が大切だと実感。その経験をもとに、ホームコンサートやアクトシティ浜松での発表会など、披露の場を多く設けている。生徒との合言葉は「夢ある人生を！」。足田先生の教室から、さらなる実力派ピアニストの誕生を期待せずにはられない。



上原ひろみさんとのツーショット。足田先生の好きな言葉「努力は天才の別名なり」は、まさに上原さんを表した名言。

地域に根差した活動を 子どもたちの身近なピアニスト



萩丘小学校校門前にて。今西さんを見つけると、うれしそうに駆け寄り話す生徒たち。

今西泰彦

Yasuhiko Amanishi

「浜松の芸術文化レベルの向上に貢献したい。浜松への恩返し」との想いから、現在、地元浜松で活動するピアニスト、今西泰彦さん。2018年2月、母校である浜松市立萩丘小学校の「六年生を送る会」では自ら作曲し、合唱練習では指揮棒を振り、本番では心を込めて伴奏し、卒業生を送った。また、同じく母校の高台中学校では合唱コンクールの伴奏指導や審査員を担う。子どもたちが本来持つ能力に差はない。だからこそ教育者の指導力を高めることが必要だと、先生に対する教育も行っている。

憧れはどんな形でも良い。今西さんがピアニストを目指したのはドラマ「ロングバケーション」の主人公への憧れからだ。そのエピソードから今西さんはメディアにも登場するようになる。テレビ番組「HERO THE TV」では主演・木村拓哉さんの目前で演奏。映画「四月は君の嘘」やドラマ「ごめん、愛してる」のピアノ演奏シーンで出演した。「そんな私を見て、子どもたちがピアニストに憧れてくれたら。そして自分が一番大切にしたいその時代にその人が生きた音楽を表現できる演奏家が誕生してくれたらうれしい」と語る。

Profile

浜松北高等学校卒業、東京藝術大学入学、2007年第12回浜松国際ピアノアカデミー受講、2008年に渡欧、東京藝術大学大学院卒業。イタリア・イモラ国際ピアノアカデミー、ミュンヘン国立音楽・演劇大学などで学ぶ。2017年全国日本ピアノ指導者協会 新人指導者賞 受賞



ハイレベルなピアノ文化を発展させる 浜松のエキスパート

浜松から世界へ名を轟かせる、調律師・教育者・指導者たちを紹介

episode 4
Hamamatsu International Piano Competition

Profile

1948年ヤマハ株式会社(当時日本楽器製造株式会社)に入社。ピアノ技術職一筋、北海道で4年、東京で10年、ヨーロッパで4年、巨匠ピアニストの専属ピアノ調律師として世界26カ国を回る。帰国後、ヤマハのピアノ製造部長、技術部長を歴任。1980年ピアノ調律師養成機関「ヤマハピアノテクニカルアカデミー」を設立。2007年第17回新日鉄音楽賞・特別賞受賞。著書「ピアニストと語る」(芸術現代社)、「いい音ってなんだろう」(シヨバン社)など。



村上輝久

Teruhisa Murakami

世界が認めたレジェンド 「舞台裏の魔術師」と称された調律師

村上輝久さんはピアノ音研究のため渡欧した際、2人の巨匠ピアニスト、ミケランジェリとスヴァストラフ・リヒテルに認められ、1966年から1970年まで専属ピアノ調律師として活躍した。それは「モーツァルトもバッハもいない日本の調律師が世界に通用するはずはない」という常識が覆った、まさに歴史的な出来事であった。調律師の仕事は、音程や音階を合わせる「調律」、タッチを整える「整調」、音色や音量を整える「整音」の3つの作業から成り立つ。それは0.1mmの鍵盤の沈みをも調整する職人技だ。これに加え、調律師には「演奏者が求める本当にほ



「すべてのピアノをストラディバリウスに変える東洋の魔術師」と絶賛された調律師。常に最高の状態でピアノを提供してきた村上氏が自身の人生を語る。

しい音を読む力」と「コミュニケーション能力」が必要であると村上さんはいう。ピアニストは作曲家の歴史や生きた時代の背景、音楽の基本を徹底的に学んでいる。そんな彼らの心を正確に読むためには、当然、調律師にも知識が必要である。そこで帰国後、技術だけでなく音楽史から心理学まで徹底して修得できる「ヤマハピアノテクニカルアカデミー」を設立。村上さんの後を継ぎ、世界で活躍する調律師たちを輩出している。そして88歳になる今もなお、若手ピアニストを対象にレクチャーコンサートを開催するなど、全国各地を訪れている。

村上さんに聞いた 浜松国際ピアノ コンクールについて

1991年、浜松市民会館ホールで行われた第1回浜松国際ピアノコンクールでは、運営委員と調律を担当しました。その後引退しましたが、2回目以降は聴衆として毎回欠かさず参加しています。レベルは回を重ねるほど上がり、世界で活躍するピアニストが誕生しています。チケットも一瞬で完売してしまうほどの人気です。個人的には、多くの演奏家たちの個性を次から次へと楽しめる1次予選が1番好きです。第10回も楽しみにしています。